

News Release

株式会社 JVCケンウッド

2026年9月30日

生成AIと無線通信を活用し、イベント運営の効率化・リアルタイムでの状況把握への有効性を実証

AI 無線通信ソリューション「ULULA-i」によるイベント運営支援の実証実験を実施

～無線機を通じた問い合わせへのAIによる音声回答などを実現～

株式会社JVCケンウッドは、株式会社エクセリ（本社：東京都墨田区、代表取締役社長：吉田 統一）の協力のもと、北海道旭川市内で開催された「北の恵み あさひかわ食ベマルシェ2026」（会期：9月19日（土）～21日（月・祝））において、AI無線通信ソリューション「ULULA-i（ウルラアイ）」（開発中）による、生成AIと無線通信を活用したイベント運営支援の有効性を検証する実証実験（以下「本実証実験」）を実施しました。

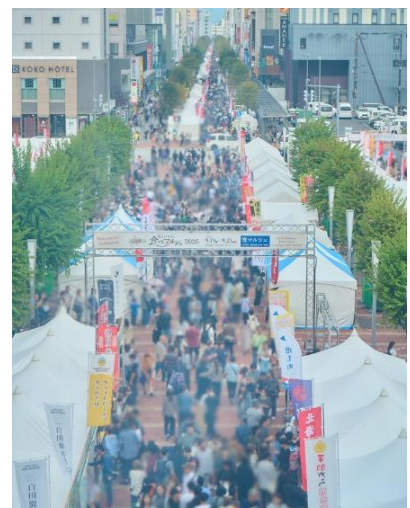
「ULULA-i」は、無線機やカメラ、マニュアルなどの情報を統合して、現場の音声・映像・データを一元管理し、クラウド上の生成AIを活用することで、遠隔地の状況を音声やダッシュボードで把握できる環境を提供するソリューションです。本実証実験では、会場スタッフが業務で使用するIP無線機と「ULULA-i」を連携。無線機を通じた問い合わせへのAIによる音声回答、カメラ映像を基にしたAIによる来場者状況の可視化・分析、会場スタッフの位置情報やカメラ映像などを統合したダッシュボード表示、さらには運営レポートの作成を実現しました。これにより、イベント運営の効率化・リアルタイムな状況把握における「ULULA-i」の有効性を実証しました。

**1. 本実証実験の背景**

近年、多くの来場者や参加者が集まるイベントでは、来場者対応の品質向上や安心・安全な会場運営が求められる一方で、限られた人員で効率的に運営を行うことが課題となっています。今回、実証実験の場とした「北の恵み あさひかわ食ベマルシェ2026」は、来場者・参加者への案内や会場全体の状況把握、運営ノウハウの継承などが重要となります。そこで当社は、独自の無線通信技術とAI技術を活用して、イベント運営の効率化と状況把握の高度化を図り、その有効性を検証することを目的として、本実証実験を実施しました。

2. 本実証実験の概要

会場スタッフが使用するIP無線機と「ULULA-i」を連携させて検証を実施し、イベント運営支援への有効性を確認しました。



<「北の恵み あさひかわ食ベマルシェ 2026」の様子>

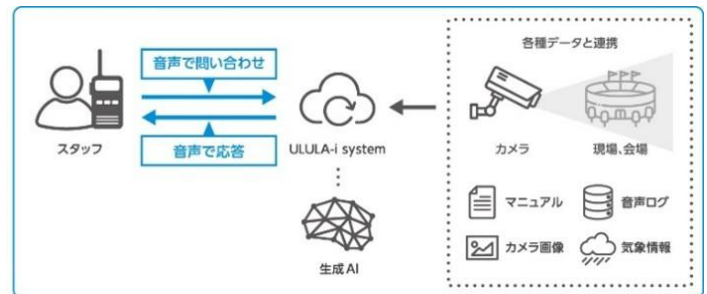
(1) 対象イベント

北の恵み あさひかわ食ベマルシェ2026

- ・主催者：北の恵み あさひかわ食ベマルシェ実行委員会（旭川市経済部経済交流課内）
- ・実施期間：2026年9月19日（土）～21日（月・祝）
- ・実施場所：北海道旭川市内（会場：旭川駅前広場、平和通買物公園）
- ・延べ来場者数：98万4千人
- ・IP無線機使用台数：約20台

(2) 使用した当社のシステム・無線機

・AI無線通信ソリューション「ULULA-i」（開発中）
生成 AI と無線通信・音声解析・映像解析の技術を「音」でつなぐ、当社が開発中のシステム。無線機による通話内容、カメラ映像、マニュアルなどのデータ情報を統合して一元管理し、生成AIを活用することで、遠隔地の状況を音声やダッシュボードで把握できる環境を提供します。



<システム構成イメージ>

・IP無線機「KBX-P51」

デュアルSIMによるLTE接続とWi-Fi接続に対応し、最大3つの通信回線を自動で切り替えて利用可能。27言語の自動翻訳機能と文字起こし機能（いずれもオプション）も備えた、全国規模で通話可能なIP無線機です。

【関連リンク】 [IP無線機「KBX-P51」商品ページ](#)



<IP 無線機「KBX-P51」>

3. 主な検証項目と結果

(1) 無線機を通じた問い合わせへのAIによる音声回答

会場スタッフがIP無線機を通じて音声で質問すると、AIが事前に取り込まれたマニュアルやガイドマップなどの情報を基に、出店場所、イベント情報、トイレの場所などを検索し、音声で回答できるかを検証しました。

質問例：「〇〇の出店場所は？」「ステージイベントの開始時間は？」「駅前広場の出店者の車両が進入可能な時刻は？」「段ボールは捨てられるか？」

その結果、スタッフからの問い合わせに対し、AIが関連情報をリアルタイムでの音声回答に成功しました。スタッフはマニュアルやガイドマップを確認することなく来場者・参加者に必要な情報を案内できることを確認し、問い合わせ対応の効率化や対応品質の均一化への有効性を実証しました。

(2) カメラ映像を活用したAIによる来場者状況の可視化・分析

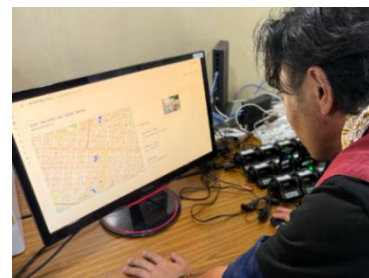
会場内に設置したカメラ映像をAIが解析し、対象エリアの人数の把握や一定以上の混雑状況のアラート通知を検証しました。さらに、対象エリアの人数の推移や天候との関連性について分析しました。

その結果、今回は設定した人数を超えた混雑は発生しなかったため、アラート通知には至りませんでした。対象エリアの各日の最大人数や時間帯ごとの人数推移、雨天時との相関関係を可視化してレポートを作成することができ、イベント運営の振り返りやノウハウの蓄積に寄与することを実証しました。

（３）運営本部ダッシュボードによる状況把握

運営本部向けダッシュボードに、スタッフの位置情報を示した会場地図、問い合わせを含めた無線機での会話ログ、直近の会話の要約、およびカメラ映像を統合表示できるかを検証しました。

その結果、イベント運営に必要な情報を一画面に集約して可視化することに成功。運営本部によるリアルタイムでの状況把握を支援でき、有効性を実証しました。



＜運営本部向けダッシュボードを確認する様子＞

（４）運営レポートの作成

実証実験の終了後には、問い合わせ内容や発生時刻、混雑状況の推移、次年度開催に向けた改善事項などを整理して分析したイベントの運営レポートを作成しました。その結果、現場の状況を可視化することができ、イベント運営の振り返りやノウハウの蓄積に寄与することを実証しました。

4. 今後の展開

当社は、本実証実験で実証した知見および結果を踏まえ、AIと無線通信を活用した「ULULA-i」の実用化に向けて開発を加速していきます。今後は、イベント会場やスタジアム、大型施設など、多くの人が集まる現場における業務効率化や状況把握の高度化への貢献を目指します。さらに、自治体やインフラ、公共施設などにも活用範囲を広げ、AIと無線通信を活用した新たなコミュニケーションサービスの創出と価値提供を推進していきます。

＜株式会社エクセリの概要、および本実証実験における役割について＞

株式会社エクセリ（所在地：東京都墨田区、代表取締役社長：吉田 統一）は、無線機・トランシーバー・インカムの販売およびレンタルサービスを提供しており、当社製品の販売パートナーとしてKENWOODブランドの各種無線機を取り扱っています。

今回の実証実験では、株式会社エクセリの協力のもと、同社が旭川市との本実証実験の調整・連携支援に加え、IP無線機、カメラ機材などの運用・構築を担当し、当社は「ULULA-i」の開発を担当しました。

＜「北の恵み あさひかわ食べマルシェ」について＞

「北の恵み あさひかわ食べマルシェ」は、北海道旭川市で開催される北北海道を代表する食の祭典です。JR旭川駅周辺や平和通買物公園など旭川市中心街を会場に、同市をはじめ北北海道各地の自治体、および同市の交流都市から約235店舗が出店します。地元の多彩なグルメやステージイベントなどを通じて、多くの来場者で賑わいます。

本資料の内容は発表時のものです。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

www.jvckenwood.com